

日高市環境基本計画（後期）（案）に対する市民コメント募集結果

	計画に対する意見	市の考え方
1	<p>第5章1.「取り組みの方針1」で数値目標が示されているが、自然環境の創出、保全の視点からみた場合、単に植栽実績の本数を目標値にかかげているが、森林の質、生物多様性の向上、維持といった側面からの有効な手法、対策にはならないと思う。ここはもう少しいねいに種の多様性を増す植栽方法か、森林の構造、ランドスケープなどに配慮した具体策、目標が設定されるべきではないか。緑の多さ、自然の豊かさをセールスポイントとしたまちづくりを前面に打ち出している本計画では、大切なポイントである。</p> <p>里山の保全の定義があいまいで、農地の役割のみが強調されている。里山の定義を明確にし、具体性のある施策を盛り組むべきではないか。とくに、市は武蔵野の面影を残すケヤキ林の残存林が里山の特色、農村景観を特色づけている。この点を再認識し、市の個性、伝統的土地利用を財産として見つめる事がとても重要ではないかと思えます。</p>	<p>本計画は今回、後期計画として中間年度の見直しを行うもので、前計画を踏まえた数値目標を掲げました。次期計画に向けた貴重なご意見として承りました。</p> <p>取り組みの方針1の「(1) 山と農地の緑の保全」では農林業を中心とした取り組みとなっていますが、取り組みの方針2を含めた「基本目標 1 山と水と生き物に囲まれたまちをめざして」における取り組みが里山の保全につながると考えています。残存林や農村景観の保全等は、民有地が多いため、市民の皆様との協力を得ながら協定等による保全の検討を行っていきたくと考えており、p.30 に施策の展開として掲載しています。</p>
2	<p>日高は環境の良いところだと思いますので、行政がもっと前面にたって指導すべきだと思います。本気で取り組む覚悟があれば知恵はあります。現在、文化水準するには、地球があと2個半必要といわれます。逆に言うと2倍半の改革が行う必要ということです。それが、行わないと持続可能な社会にはならない。明治維新以来の化石燃料の使いすぎが現在の状況となっている。原発はCO₂は出さないというが、とんでもない。燃料ペレットを作るまでに莫大な化石燃料を使っている。</p>	<p>本計画は、市民・事業者・市が協働し、環境の保全及び創出に関して総合的かつ計画的に推進するための大綱となるものです。詳細な取り組み方法等については、今後も市民・事業者の皆様とともに保全活動を進めていく中で協議しながら検討していければと思っております。</p>
3	<p>①自然に関わる課題について</p> <p>都会に比べれば豊かな自然に恵まれているように見えますが、上流の宅地開発や森林の伐採や荒廃により高麗川の水量が減少し、度重なる河川工事によって水質や動植物の生育環境も悪化しています。川はそれぞれで独立して存在している訳ではありません。川のは健康は流域の環境に大きく作用されます。日高市の抱えている課題は、自然を「守る」のではなく、「回復させ</p>	<p>貴重なご意見として承りました。</p> <p>「川のまるごと再生プロジェクト」は埼玉県の事業であり、高麗川や小畔川の河川管理は国と埼玉県となっているため、関係機関と連携を図りながら清流の維持・保全に取り組んでいきたくと考えており、p.20 に施策の展開として掲載して</p>

	<p>る」だと思います。自然はかなり疲弊しています。</p> <p>②環境施策</p> <p>行政側も市民も、自然との付き合い方を正しく知る必要があるのではないのでしょうか。この土地の山や川は、健康なのかどうか。すべてが一体となって存在するのですから、山が荒れ、耕作放棄地に除草剤が撒かれ、耕作地に農薬や化学肥料は撒かれ、雨が降れば地中にしみ込んで、或いは川に流れ込むわけで、あらゆるものが影響し合いながら、環境は悪化していくのだと思います。</p> <p>土壌は微生物や虫などによって保たれ、川では水草や水生生物やプランクトンが魚や鳥たちのエサや住処になります。すべてが健全に保たれてはじめて、「豊かな自然」と胸を張れるのではないのでしょうか。</p> <p>現在進められている「川のまるごと再生プロジェクト」は、上記の文脈からすると、自然の生態系を全く考えずに進められている計画です。治水のためにやむなく進められる工事ならばいざ知らず、魚影を観るための大仰な魚道工事や、巾着田からの川沿い遊歩道を作るための工事は、今回の施策の目指す方向とは逆方向ではないのでしょうか。魚影を観るための魚の放流は、現在の川が養える魚の許容量を超えさせています。魚が減ったら増やせばいいではなく、なぜ減ったのかを考えないと。人と自然が折り合える形を探して、上手にその恩恵が受けられる未知を探しませんか？勉強会を開きませんか。知らなければ教えてもらいましょう。日高市の本当の魅力を、まず当事者である私たちがきちんと知る必要があるように思います。</p>	<p>います。</p> <p>また、水や土とふれ合う機会の創出は大切と考えております。自然観察会や環境学習を通し、そうした機会を増やす取り組みを進めていきたいと考えており、p. 45～46 に施策の展開として掲載しています。</p>
4	<p>とにかく、木を植えて排気ガスを吸わせてほしい。塀を生垣にし、街路樹をうえていく。積極的にやってほしい。目がザラザラして困るので！</p>	<p>適切に管理された森林・農地の保全は今後も推進していくとともに、公園や道路への植栽整備を検討していきたいと考えており、p. 29、p. 30、p. 34 に施策の展開として掲載しています。</p>
5	<p>「人・地域社会」、「経済」、「まちづくり」の3つの視点から取り組み推進する。</p> <p>環境と人・地域社会</p> <p>2020（平成32）年度までの環境目標</p> <p>市民の日常生活においては、企業は、環境改善につながる技術開発を積極的に実施し、地域は、地域活動が活発に行われ、地域の活力がみちている環境を目指します。</p>	<p>本計画は今回、後期計画として中間年度の見直しを行い、望ましい環境像、基本目標並びに取り組み方針については前計画を踏襲することとしました。次期計画に向けた貴重なご意見として承りました。</p> <p>なお、東日本大震災に伴う放射性物質や電力不足の対応は、広域的な</p>

環境と経済

2020（平成 32）年度までの環境目標

さらなる企業誘致により、新たな展開による市内経済の活性化を進め、日高の地域資源の活用による環境技術・ノウハウの蓄積等が活発に行われる環境を目指します。

環境とまちづくり

2020（平成 32）年度までの環境目標

環境配慮と都市活動のバランスが保たれ、住みやすく、働きやすい環境、また、誰もが移動しやすく、環境にやさしい交通体系が整備され、美しいまちなみが観られる環境を目指します。

「地球温暖化対策」、「生物多様性」、「水とみどり」、「食と農」、「資源循環」、「生活環境」の 6 つの視点から施策を体系化します。特に「温暖化対策」に取り組む。

別紙

①東日本大震災への対応について

平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災、そして福島第一原子力発電所の事故は、各地に甚大な被害を及ぼし、今もなお日常生活への不安を始めとした様々な影響を与えています。

市として、放射物質や電力不足対応など、市民生活の安全・安心確保に向けた取り組みを進めなければならない。

1. 市役所の放射線対策

計画的な測定、監視の継続

2. 節電の対策

市民一体となった節電計画の実施

3. 日高市地震ハザードマップの活用

定期的・計画的な市民への教育・訓練

②ごみ どうしますか？

出さないのが一番、でも出るのがゴミです。劇的に減らす特效薬は、簡単には見つかりません。ゴミ袋の有料化は、多くの地域が取り組んでいる一つの手段です。みんなにわかりやすい分別の導入など、企業や国の努力を求める意見が多い。

1. 高齢化社会とゴミ

年を取ると大変なのが日々のゴミ出しだ。分別は良く分からないし、集積所まで運ぶのはきつい。ちょっと面倒くさがると、あっという間に「ゴミ屋敷」となる。

2. 「ゴミ屋敷」も今後の課題

取り組みを必要とするため、今後も関係機関と連携を図っていきます。また、第 5 章基本目標 4（p. 35～）において「日高市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）」とともに節電やごみの減量についての取り組みを示しました。日高市は、事業者と協力して可燃ごみをセメント資源化しており、リサイクル率約 99%を維持しています。

ごみの分別方法は、「ガイドブック」を配布するとともに、ホームページ等でお知らせしていますが、よりわかりやすい分別方法のお知らせを検討することについて、p. 44「ごみに関する情報提供を行います。」として施策の展開に掲載しています。ごみ出しの問題は p. 28 に空き地や空き家の適正管理を含めて施策の展開として掲載しているとともに、コミュニティの活性化が重要であると考え、次期計画の貴重なご意見として承りました。

①全体として

今後、人口減少が進む事は必須な状況にある。(p5 では、人口減の事に言及されていない) 本計画(案)では、このことにほとんど触れられていないが、今から人口減のことを意識した計画を策定して対応していく必要があると考える。(空き家の増、利用者減に対して環境負荷の小さい公共交通機関をいかに維持していくか等々)、

前期計画の推進・達成状況と今回計画(案)とのつながりを明確にできるとわかりやすいと思う。(前期は、このようなことをやって、このような結果となり、このような課題が残った。故に後期はこのようにやっていく、といった流れを基に表記できるとありがたい)

②個別の内容についての意見

1. p7

「図一 大気汚染物質(年平均値)の推移」グラフにおいて、光化学オキシダントが漸増していることが気になる。何らかの言及があってもよいのではないか。また、環境基準の具体的な数値を明示した方がよいのではないか。

2. p10、p11

「(6) 地球環境」の①および②は、日高市のことについて述べているが、③はグローバルな内容となっていて、①および②と③との内容の整合がとれていないと考える。また、①および②の内容は、見出しの「地球環境」とはマッチしていないように思える。

3. p12

「第3章 日高市の環境課題」として、散在している残土類の盛山や、廃品・廃物の置き場のことに、言及する必要があるのではないか。また、セメント工場の関係から、二酸化炭素の排出が多いことについても、日高市固有の課題として触れる必要があるのではないか。また、セメント工場では、他地域から廃棄物を受け入れているとのことであるが、環境上の問題はないのか気になる。

4. p19

前述の「2」と同様の見地から、残土類の盛山が景観や環境を害していることについて、対策を考える必要があると思われる。

5. p29

数値目標の表については、達成率のみを示している項目があるが、対象数も示していただけないか。(たとえば、市道の整備率について、対象となる路線の長さ

人口の推移は現在漸減傾向ですが、総合計画では平成32年度の将来人口を58,000人と見込んでいます。人口減少を踏まえた計画については、貴重なご意見として承り、次期計画の検討課題とします。

光化学オキシダントは、二酸化窒素や炭化水素類が太陽光(紫外線)により光化学反応を起こし発生する汚染物質です。気象条件や化学物質の拡散状況によるため、広域的な取り組みが必要となります。また、ここで示した大気汚染物質の推移は年平均値を掲載しており、環境基準との評価を行う数値とは異なるため、掲載していません。

ごみ減量とリサイクルは温室効果ガス排出と密接な関係があるため、ここで掲載し、ご指摘のとおり修正しました。

無秩序な盛土を防止するため、県や市の条例により一定規模以上の土砂の堆積は許可等が必要となります。廃棄物は適正処理を図り、汚染防止の徹底に努めるとともに、不法投棄はパトロールや住民の方からの情報提供等により適切な対応に努めています。p.26～p.28に施策の方向性として掲載し、追加しました。

今回計画の見直しに際して、「日高市地球温暖化対策実行計画(区域施策編)」を第5章の地球環境保全の取り組みとして掲載し、その中でセメント工場からの二酸化炭素排出について掲載しています(p.37をご参照ください)。

道路や公共施設バリアフリーの整備は、都市計画や庁舎内整備計画等に基づき計画的に進めており、また、自転車や公共交通機関利用の推進は今後も継続して取り組むことについて第5章 基本目標3及び4

6

(km) も知りたい)

6. p31

「公共施設におけるバリアフリー化を推進します」については、対象箇所数や達成率など、数値による目標管理が必要ではないか。また、放置自転車の問題は、利用者モラルや放置自転車の撤去・整理にとどまらず、今後、自転車を環境にやさしい交通手段として位置づけて、むしろ自転車の利用を推進する対策の検討も必要と考える。(環境負荷の大きいマイカー依存を減らすことや、自転車と鉄道などの公共交通機関とをセットにして利用推進していくなど)

7. p40

路線バスや鉄道の運転本数の拡充を事業者にお願いするとのことだが、利用者が少なければ事業として継続できない。市民に公共交通機関を利用してもらうこと、長期的には公共交通機関を利用しやすいようなまちのあり方について検討する必要があると考える。(利用者の立場に立ったバス停留所の整備、駅や公共施設・大型商業施設等を結ぶ交通ネットワークの構築など)

(p. 29 以降) の中で示しています。詳細な取り組み方法等については、計画を推進していく中で検討したいと考えています。